

昔の中村(中宮地区)の特産物

「河骨(こうほね)」

河骨とは、スイレン科の多年草
地下茎が竹のように太く、根が多く出ている、
地下茎が強壯、止血剤の薬となり脚気にも効能がある――。

隔年、8月より9月に根茎を収穫し、泥を洗い落として30cm位に切り、それを縦に2つに割って、干し、ひっくり返して、ポキポキに折れるまで乾かし、水分をとる。それを、大阪の薬種問屋に出荷されていた。大正8年度の収穫高凡そ千貫(3750kg) 価額1500円(当時)。 <上田(勢)>

【参考文献】「東成郡誌下巻」「大阪府の地名I」



■コウホネの根茎(新潟県新潟市)



■コウホネの花(福島県飯舘村)



■コウホネ(山形県村山市)

(写真3点提供:大阪市立自然史博物館 志賀氏)

旭区の柳通り



■昭和30年代の柳通り
(現在の旭消防署交差点付近)

ワークショップの中で「柳通り」という通りの名前がよく出てきます。

「柳がある通り?」といつも首をかしげているところ、その答えが旭区のホームページにありました。確かに今はない柳の木が街路樹として植えられています。

<ファシリテーター>

昭和30年代に、現在の旭消防署前交差点から西側を写したものです。当時交差点南西には、音楽関係で知られた音響があり、テレビ・電気蓄音機などを製作していて、初荷の風景を写したものです。また、音響の西隣に関西染工場という布地を染める会社がありました。

(旭区ホームページより)



戦災の思い出の記

昭和20年6月7日の空襲で私の生家も焼けた。重誓寺さんも焼けた。
蓮如上人お手植えの松、藤も大きな伽藍と共にすべて灰に帰したときいている。

この時はB29が250機以上。B24護衛機を引き連れて小型爆弾や油脂焼夷弾で空爆し、
約2800人が死亡。旭区でも261人が死亡した。

この日、私も空襲警報発令と同時に城北方面に逃げた。

(その日は6月1日の空襲で在学していた清水谷高女も被災し、同じ塚にいた学友3人も亡く
していたので学校が閉鎖になっていた)

そして、赤川鉄橋付近で容赦なく機銃掃射爆弾の雨が降った。その弾痕は今はない。

私は、その時履いていた下駄の後かけのひも(ぬげないように)の調子が悪くモタモタしてい
る間にそれに遭遇し、急降下してきた米軍兵の顔まで覚えている。

その後、身許不詳や引き取り手のない遺体は数カ所で野焼され、淀川の堤防付近に千数百体が
運ばれて茶毘に付され遺骨はその土中に葬られた。

それを哀んで、篤志家の東浦栄二郎氏が庭石に千人塚を刻んでその場所(現在より東の堤防の
中腹)におかれたときいている。

現在は、堤防上に由末記と共に黒御影を台座にした千人塚があり、毎年6月に慰霊祭が行われ、
当時は偲びその冥福を祈っている。どんなに無念であったことだろう。

思うに私たちが生き抜けてきた時代の中で、それぞれの戦時体験とその時代や思い出を戦争
を知らない世代に是非共語りかけたいと思う。

それこそ、消えていく過去への何よりのレクイエムになるというものであろう。 <竹中>

戦災の思い出は切ない

○



■千人塚

戦災に関するコラム

まず、私達が直面したのは食糧にまつわる
ホロ苦い経験である。

さつま芋(芋でない)のつる、南瓜のつるも
筋をとって食べた。その他、e t c...

それでもアメリカのララ物資のおかげで
固いコッペパン、団子汁(後にスイトン?
という名に変わったが)一番びっくり唾然
としたのはアメリカ軍の非常食セットの
豪華版である。食後の煙草まで付いていた。
日本の乾パン糰(ホシイ)とはえらい違い
である。 <竹中>